HANDS

Kokura Memorial Hospital

80
2020

いつもの暮らしに、いつものあなた
小倉記念病院

〒802-8555　北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号　TEL.093-511-2000（代表）　小倉記念病院　検索
TEL.093-511-2062（医療連携課）FAX.0120-020-027（医療連携課）FAX.093-511-2032（救急室）夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

新たなハイブリッド手術室と最新の手術用顕微鏡を導入したことにより、開頭手術・血管内カテーテル手術を組み合わせたハイブリッド治療が行えることで、治療困難な脳動脈瘤や脳動静脈奇形の治療が可能になりました。

開頭顕微鏡手術・血管内カテーテル手術を組み合わせたハイブリッド治療

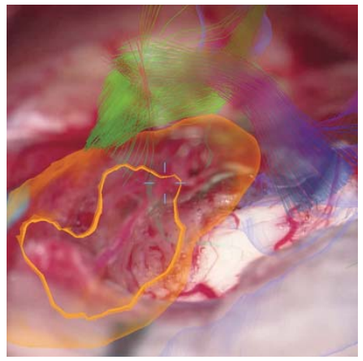
ハイブリッド手術室は心臓や大血管の手術における使用がメインでしたが、当院の最新ハイブリッド手術室は脳神経外科手術に必要な撮影モードや手術テーブルを装備しており、脳神経外科領域でも積極的にハイブリッド治療を導入しています。脳動脈瘤や脳動静脈奇形などの血管障害に対する手術において顕微鏡手術とカテーテルを用いた血管撮影や血管内手術を組み合わせることで、治療が困難な病変に対してもより確実な治療や新たな治療の可能性が生まれています。また、症例によってはハイブリッド治療の導入により、顕微鏡手術または血管内手術のどちらか単独で治療を行うより低侵襲な治療も可能になっています。

手術に集中できる制振機構

KINEVO900に採用されているアクティブ制振機構は振動を最小限にとどめて、術者が治療に専念できる環境を創出してくれます。また最適な視野の確保や術野の深い場所に対して、より正確なアプローチを実現するためには絶えず手動で顕微鏡を動かす作業は非常にわずらわしい作業でした。KINEVO900は、より少ない労力でより正確なポジショニング操作を可能にした新しいスタンド機構を備えています。

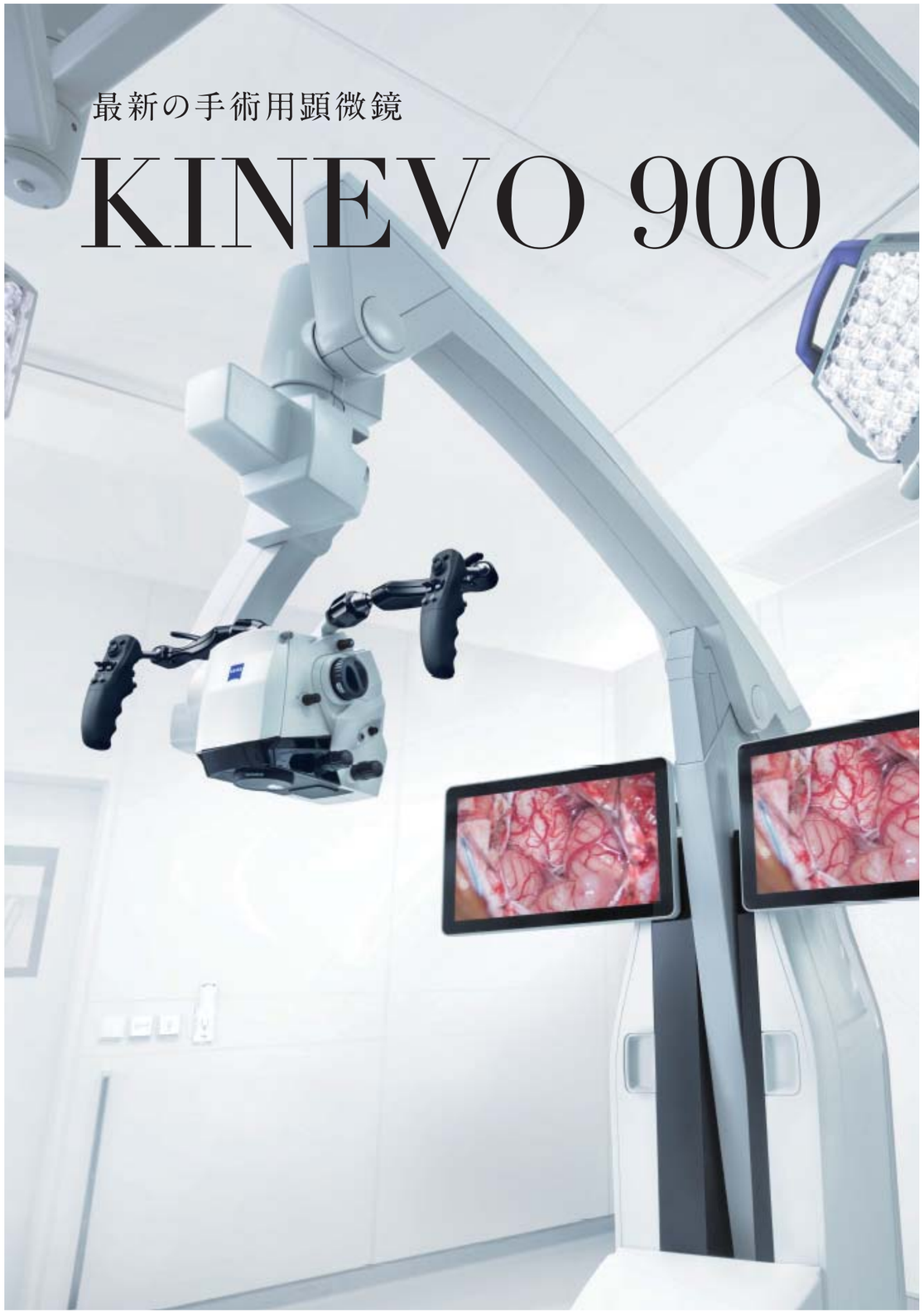
新たなナビゲーションシステム

KINEVO900に搭載されたナビゲーションシステムは6軸すべてを動かすことが可能で、あらかじめ任意の観察場所を保存し、ボタン操作一つで同じ倍率・同じ作業距離を伴って同じ場所へ瞬時に戻ることができ、一度保存したターゲットをミリ単位の精度で追尾します。両手に手術器具を保持した状態で自動的に同じ観察場所へ移動できる可動性は、これまでにない快適性を実現しています。



4K技術を駆使したカメラシステム

内蔵4K技術を駆使したKINEVO900は接眼レンズを覗かずに、対面のモニターで術野を確認することが可能となりました。これにより術者の無理な観察姿勢による疲労の蓄積を軽減させることができます。また、助手や手術スタッフが4K高解像度画像を共有できることで、実際の手術をより正確かつ忠実に学習することが可能となり、かつてないレベルのトレーニング環境が整いました。

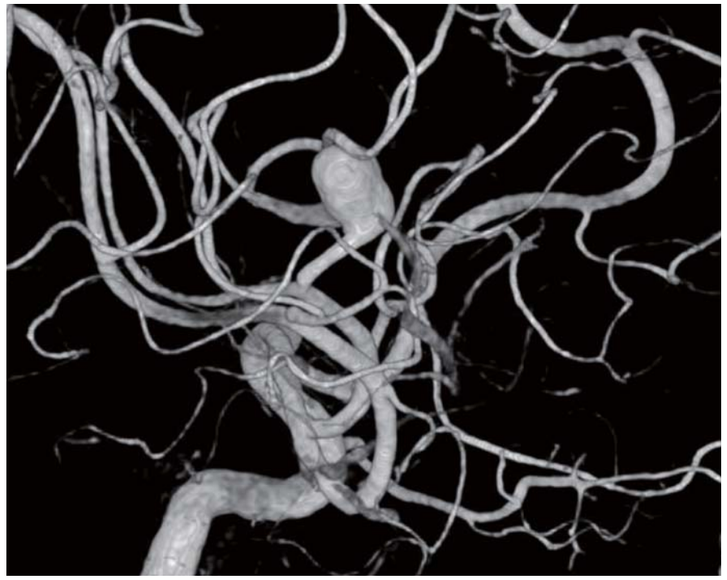


CASE 1

治療困難な巨大脳動脈瘤のバイパス手術をより確実に

カテーテルを用いた血管内治療のデバイスが発達した現在でも症状を呈するような巨大脳動脈瘤に対しては、開頭による顕微鏡下バイパス手術が必要になる症例があります。従来のハイブリッド手術室は、脳神経外科手術に関しては十分に考慮されておらず開頭手術に必要な様々な体位や頭位に対応できる手術ベッドや固定器が存在しませんでした。新たなハイブリッド手術室では、脳神経外科対応の手術ベッドや頭部固定器具を用いて通常の脳神経外科専用手術室と同様の快適な環境でバイパス手術を含む緻密な脳神経外科手術を行うことができるようになりました。また、その手術体位のまま高画質な血管撮影が可能となり、閉塞すれば大梗塞に至る高流量のバイパスの開存も脳動脈瘤の発生した親血管の永続的な結紮遮断の前に確認することができるようになり、より確実な手術が可能になりました。

CASE 2



深部の大型脳動脈瘤治療をより低侵襲で安全な治療に

新たなハイブリッド手術室の血管撮影装置では、高画質の透視下で脳動脈瘤の発生している血管の選択的造影が可能となり、最新の顕微鏡と組み合わせることで脳動脈瘤を露出せずにその動脈瘤の位置や遠位のバイパスが必要な脳表血管を正確に同定することができます。バイパス手術を行った後に、引き続き3D血管撮影などを駆使した血管撮影室と同等のカテーテル治療も可能となりました。抗血小板剤やヘパリンを投与して行うカテーテル治療中は一旦止血が得られた術野でも出血が見られます。ハイブリッド手術室での手術では、開頭のままカテーテル治療を行いカテーテル治療終了後に確実に止血を行い閉頭するため術後の出血性合併症を防ぐことができます。このように深部の大型脳動脈瘤に対しても、術中に動脈瘤を実際に見ることなくバイパス手術と脳動脈瘤の完全な塞栓を行うことができ、さらに確実な止血とバイパスの開存も確認できるため、より低侵襲でより確実・安全な治療が可能となりました。

2020 脳卒中センター

小倉記念病院 脳卒中センターは、24時間365日体制で脳疾患と立ち向かっています。超急性期の先進的治療から地域と連携をとりながら社会復帰に至るまでの包括的医療を、各専門分野のスペシャリストで構成された脳卒中サポートチームで支えています。高度専門医療を駆使し国内屈指の診療実績を積み重ね、脳卒中医学の発展に貢献できるよう取り組んでいます。

脳神経外科
申澤 祐介

脳神経外科
辻本 吉孝

脳神経外科
北村 泰佑

脳神経外科
阿河 祐二

脳神経外科 副部長
千原 英夫

脳卒中センター長
脳神経外科 主任部長
波多野 武人

病院長
永田 泉

脳神経内科 部長
古田 興之介

脳神経外科 副部長
小倉 健紀

脳神経内科
藤木 亮輔

脳神経内科
白石 渉

脳神経外科
阪本 宏樹

脳神経外科
友寄 龍太

新型コロナウイルスと共に戦っている全ての医療機関の皆様へ

この広報誌が先生方のお手元に届くのは6月中旬かと思います。日本で最初に新型コロナウイルス感染が確認されたのは本年1月中旬ですが、2月はじめのダイヤモンドプリンセス号内における感染拡大以降、国内でも大きな問題となりました。その後の経過はご承知の通りですが、初期対応の遅れ・PCR検査体制の不備などもあり、病院や診療所の先生方や保健所スタッフのご苦労は大きかったと思います。改めてお見舞いと感謝を申し上げます。北九州医療圏ではこれまで培ってきた病病・病診連携により第一の波を何とか乗り切ってまいりましたが、第二波、第三波も危惧されます。しかし、医療連携の深化を図ることで地域へさらに良質な医療を提供できるものと信じております。本広報誌の脳神経外科は患者数の減少も比較的軽度であり、ご紹介いただいた先生方には感謝申し上げます。今後は各医療機関とも経営の立て直し等で大変なことと思いますが、変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

永田泉